

2018年09月04日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【安全な避難通貨へ資金移動が起こっている】

先週後半の8月30日(木)の海外市場では、アルゼンチン・ペソが、対ドルで急落し、最安値を更新しました。

「米ドル買い／アルゼンチン・ペソ売り」が急加速した、ということです。

このことから、アルゼンチン中央銀行は、その対抗策として、政策金利を45%から60%に引き上げました。

アルゼンチン国内のインフレ率を抑えると同時に、通貨アルゼンチン・ペソの防衛を計る目的での利上げと考えます。

ただし、この金利政策で、通貨アルゼンチン・ペソを防衛できるかは、不透明と考えます。

もっとはっきり言うならば、政策金利が60%の国に、誰も投資をしようとは思わないので、通貨アルゼンチン・ペソの防衛は、できないだろう、と考えています。

+++++

アルゼンチン・ペソの急落は、他の新興国通貨の下落に波及して、メキシコ・ペソや、南アフリカ・ランド、トルコ・リラの下落も目立っています。

そして、豪ドルの下落にも波及している、と考えます。

豪ドルは、メジャーカレンシーに分類されることが多いのですが、米ドル、ユーロ、日本円、英ポンドなどと比較すると、豪ドルが、新興国通貨に近い性質がある、ということだ、と考えます。

+++++

新興国通貨の下落は、「安全な避難通貨」への資金(資本)移動を促している、と考えます。

つまり、新興国通貨を売って、「安全な避難通貨」である米ドルやユーロ、日本円などに、

資金シフトが起こっている、と考えます。

「安全な避難通貨」は、複数あります。

その代表は、上述した米ドルやユーロ、日本円ですが、その他に、英ポンドとスイス・フランも「安全な避難通貨」と言えます。

+++++

新興国通貨の下落は、簡単に収まる問題ではない、一時的な問題ではない、と考えます。

今後、当分の間は、さらに新興国通貨に売り圧力がかかる、と考えています。

+++++

(2018年09月04日東京時間15:00記述)